

愛媛県松山市の第5次総合計画についての調査検討

02A3736 野本 享宏

指導教員 片山 正敏

1. はじめに

本研究では、愛媛県松山市の第5次総合計画を取り上げて検討し、改善案を提案することを目的とする。

2. 愛媛県松山市の第5次総合計画について

めざす将来像の実現を力強く先導していくため、まちづくりの6つのテーマを掲げ、重点的に取り組んでいる。

1) 地球にやさしい日本一のまちづくり

ごみを減らし、資源を有効に利用する

環境にやさしい公共交通機関などの利用を促進する

身近に緑があふれ、自然の大切さを実感できるまちをつくる

2) お年寄りや障害者にやさしい日本一のまちづくり

お年寄りや障害者の健康や生きがいづくりを推進する

だれもが尊重され、平等に社会参画できるまちをつくる

暮らしを支え合う環境をつくる

3) のびのび教育日本一のまちづくり

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの健全育成に取り組む

郷土自然・歴史・文化を学ぶ自主的な学習を推進する

スポーツに親しむ機会をふやす

4) 物語のある観光日本一のまちづくり

『『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり』を推進する

広域的な観光圏づくりや集客・交流施設に取り組む

5) 元気、活力日本一のまちづくり

新しい事業や産業が創造される環境をつくる

中心市街地のにぎわいをつくる

6) 安全、安心日本一のまちづくり

節水型都市づくりを推進し、安定的な水資源を確保する

総合的な防災体制を確立する

3. 検討・提案

(1) 松山市の道路についての検討・提案

松山都市圏の各所において渋滞が発生している。近年の著しい交通需要の増大や急激な市街地の拡大と都市化による生活圏の広域化・愛媛県内の県道以上の渋滞損失の48%が松山都市圏に集中していることが原因と考えられる。



渋滞長及び通過時間の調査実態から、図の①「小坂交差点」、②「拾町交差点」、③「天山交差点」、④「空港通2丁目交差点」の4つの交差点の渋滞が特に著しい。

□小坂交差点

愛媛県の大動脈である国道11号と松山環状線の交差点であり都市内交通と通過交通を主とする交通が著しく輻輳している。朝の通勤時間帯には松山市内方面への通勤交通が集中し著しい渋滞が発生している。また、県内最大の事故多発地点である。

提案…平面交差での処理は限界であると考えられる。

コストは大きい立体交差化による交通処理機能の向上が望ましい。

□拾町交差点

伊予川内線は重信川南岸地域における東西主要幹線であり通過交通に加えて朝夕の通勤交通の集中が著しい。伊予市側においては本交差点西側において2路線が合流しており交通処理能力の低下を招いている。川内側は右折車線が確保されていないことから直進交通が著しく阻害されている。

提案…伊予川内線の信号青時間比を上げる必要があるが、現在の車線構成のままで国道側の青時間比を下げることは幹線道路の円滑性を阻害すること

になる。拾町交差点は直進率が高いことから国道33号の立体交差化によって直進交通を排除し、県道側に青時間比を配分することが有効である。

□天山交差点

天山交差点は松山ICを利用した広域交通の玄関口に位置している。また、交差点周辺には郊外型商業施設が集積し、朝のピーク時だけでなく夕方のピークや休日においても渋滞が著しい。

提案…通勤時間帯だけでなく終日慢性的に混雑していることから、現況の平面交差処理から、立体交差化による交通容量拡大や、松山外環状道路の整備による交通の分散化を図る。

□空港通2丁目交差点

松山空港線は松山西部環状線の交差道路のなかでも最も混雑度の高い路線であり、朝の通勤時間帯には空港通2丁目交差点を先頭とした渋滞が発生している。

提案…松山外環状道路が整備されれば交通の分散化による混雑緩和が期待できる。交差点の交通容量の拡大、交通の分散を図るためには、総合的な渋滞対策が必要である。松山中心から放射状へ延びる幹線はあるが、それをつなぐ道路が少ない。つなぐ道路が渋滞の緩和につながると考えられる。

(2) 松山市の水についての検討・提案

松山市では、水不足への対策として、山鳥坂ダムからの分水（中予分水事業）を推進してきたが、平成13年に国の方針で除外された。すぐに実行できてコストも安い「節水」に着目し、節水PRや補助制度等を実施してきた。また、対策として、城北地区に深井戸を開発し、平成6年と同規模の湧水であっても、11時間の給水が可能となる。そして、人口のピークと予測される平成27年度（494,000人）を目標年度とし、平成14年規模（10年に1回）の湧水が起こった場合に必要となる新規水源開発量は、48,000m³/日である。水需給予測の中で、平成27年度における市民1人1日あたりの平均給水量を310ℓとしている。節水目標値を300ℓに設定する。（約5,000m³/日の節水）

○提案

- ①節水の推進（節水意識の高揚を図る。）
- ②水資源の有効利用（雨水利用や下水道処理水の再利用について検討する。）

③水資源の保全（石手川ダムや地下水の水質保全を進め、水源涵養林を整備する。）

④水資源の開発（海水淡水化や他用途からの転用などを図る。）

(3) 松山市の観光についての検討・提案

愛媛県は、四国の他三県と比べてみても、香川県の「讃岐うどん」や、高知県の「よさこいまつり」、徳島県の「阿波おどり」など、全国的に知名度の高い名物料理や祭りが少ないというのが現状である。

松山市には観光客のリピーターが少ないということが問題点である。

○提案

「新たな郷土料理創作」のイベントを開催する。松山市内にあるホテルや旅館等の料理人に参加してもらい、郷土料理のアレンジまたは新たな郷土料理の創作をテーマに対決する。

このイベントを行うことによって、対決に勝った旅館やホテル等の名があがり、宿泊客の増加につながる。そして、勝利した料理人のホテルや旅館でその料理を提供すれば、食事をしに市民の利用も増える。また、松山市には砥部焼という陶器が存在している。そこで上で述べた提案に加えて、作った料理を盛る皿も砥部焼にし、その料理と器との調和、見た目も審査の対象に入れると、さらに市民の砥部焼に対する関心も高まり、「松山の名産品」の創作・発信という松山市独自のイベントになる。イベントは松山まつりなどに組み込むこともできる。

これにより、松山市がこのイベントで創られた料理を松山の新たな名物として大々的にアピールすることができる。



4. まとめ

今回の研究では、松山市の道路・水・観光について検討・提案した。どれにも共通して言えることは、住民参加の方式が不可欠であり、松山市の特徴を生かした計画を進めていくことが大切である。都市計画は常に先見性、参加性をもっていることが必要である。